

沖縄の渋滞対策の 取り組みについて

特集

沖縄の道路渋滞については、那覇市のピーク時平均旅行速度が全国の県庁所在地の中で最も遅く、自動車保有台数や観光客の増加などにより、今後も渋滞の深刻化が懸念されています。深刻な沖縄の渋滞を一日も早く解消するため、「沖縄の新たな交通環境創造会議」を設置し、有識者懇談会で提言をいただいた渋滞削減に向けた62プロジェクトについて、ロードマップを策定するとともに、6つの早期成果実現課題（①渋滞ボトルネック対策、②基幹バスの導入・バス網の再編、③バス運行定時性の確保、④バス・タミナルなどの整備促進、⑤道路空間の再編（国際通り）、⑥県民意識への効果的な働きかけ）を選定しました。今回は、早期成果実現課題に関する取組事例の一部を紹介합니다。



わった～バス大実験の分析結果速報



沖縄県では移動手段の約9割が自家用車に依存していることから、県民意識をマイカーから公共交通機関利用へ変えるべく「わった～バス大実験」と銘打って実証実験（9/16～9/22）を行いました。実験参加者は企業などへ呼びかけて参加を募り、約1900人のご協力をいただきました。今回は実験結果の速報値としてとりまとめた結果をご紹介します。

アンケートの結果によると、約4割弱の方が実験した取組内容（公共交通通勤や時差出勤など）を継続したいと言っており、理由としては、時間を有効に使える、ストレスがなくなるなどがあり、実験を通じて公共交通利用のメリットを体感した結果と思われます。（図1）

また、旅行速度などのビッグデータの分析では、実験期間中は通常時と比較し、渋滞長の短縮や平均旅行速度の向上が確認されました。（図2）

今回の実験での行動変化が、数値的に渋滞緩和に影響を与えたことは、興味深い結果となっており、引き続き詳細な分析を行い、実験結果を公表する予定です。

図1：今後も継続したい理由

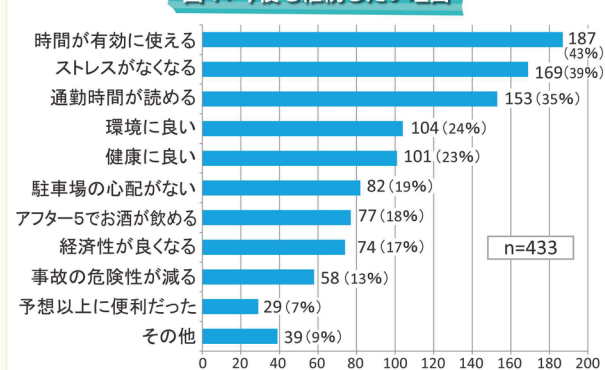
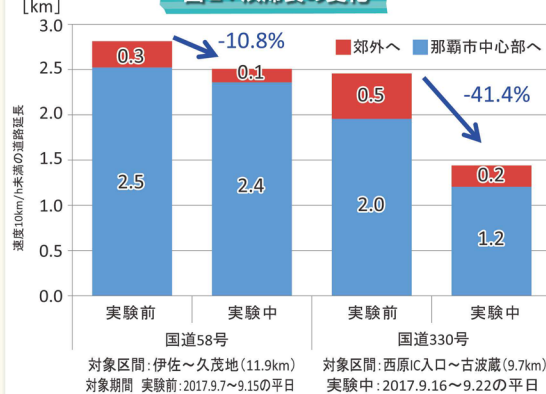


図2：渋滞長の変化





自動運転導入の検討



バス自動運転の様子(石垣市)

今年3月の南城市に続き、6月に石垣市でのバス自動運転実証実験を行いました。

その実験では全国初の試みとして一般の方に乗車してもらい、アンケート調査では、「安心・ほぼ安心して乗車できる」、「カーブなど普通バスと遜色なく滑らか」、「発進・停車は少し急」、将来性については「ある程度期待できる」などの意見をいただきました。

その結果を踏まえて

11月下旬頃

沖縄本島内においてバス自動運転実証実験を予定しています。

実験項目の内容

走行ルート車線維持制御、高精度3次元地図を利用した走行制御、路面に設置した磁気マーカー利用による正着制御の検証などを予定しております。



観光客向け移動支援 情報提供サービスの検討



増加する訪日外国人を含む観光客の交通手段に関する利便性の向上を図るため、交通結節点や観光地などにおいて、観光客を対象とした情報提供に関するニーズ調査を実施しました。

その結果を踏まえて

11月下旬頃

ICTなどの新たな技術を活用した移動支援情報提供サービスの実証実験を行う予定です。

実証実験では

一般公募で参加企業者を募り、道の駅「豊崎」で一般に公開を行い、実験結果を取りまとめて公表する予定です。

沖縄総合事務局では、今後も関係機関と連携し、公共交通の利用促進など交通環境がより使いやすくなる様々な取り組みを実施して参りますので、ご協力をよろしくお願い致します。



観光客ニーズ調査状況(那覇バスターミナル)